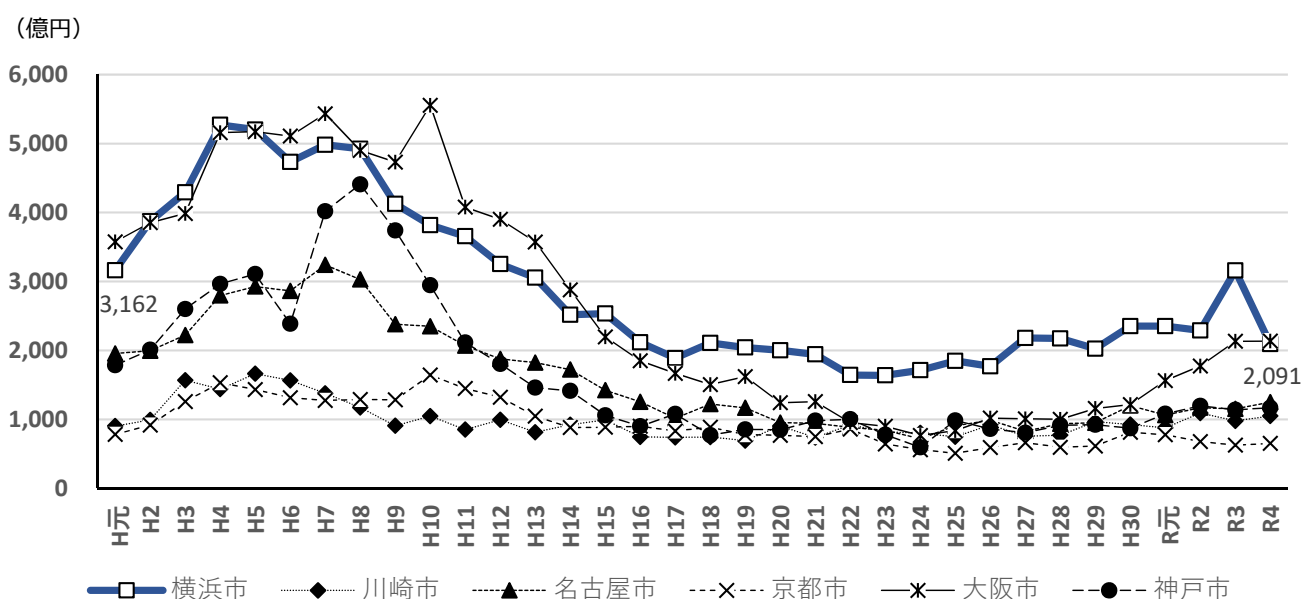


2 投資的経費と債務

- 本市の投資的経費は、類似団体に比べると総額では多くなっていますが、市民一人当たりで見ると、平成の中頃以降は類似団体間で大きな差異はみられません。なお、経費の内訳で見ると、本市はこれまで新規整備に充てる事業費が多い傾向にありましたが、令和4年度は更新整備に充てる事業費が大きくなっています。
- 投資的経費の財源である地方債の市民一人当たりの発行額や残高は、横浜方式のプライマリーバランスに基づく上限設定などの計画的な発行に努めてきたことで、類似団体に比べると、低い水準となっています。

(1) 投資的経費推移



※大阪市の平成10年度は、JR阪和線の高架化工事（用地取得含む）等による。

※神戸市の平成7～9年度は、阪神・淡路大震災の災害復旧工事等による。ここに計上されている以外にも災害復旧事業費として、7年度：2,446億円、8年度：2,095億円、9年度：207億円の支出がある。

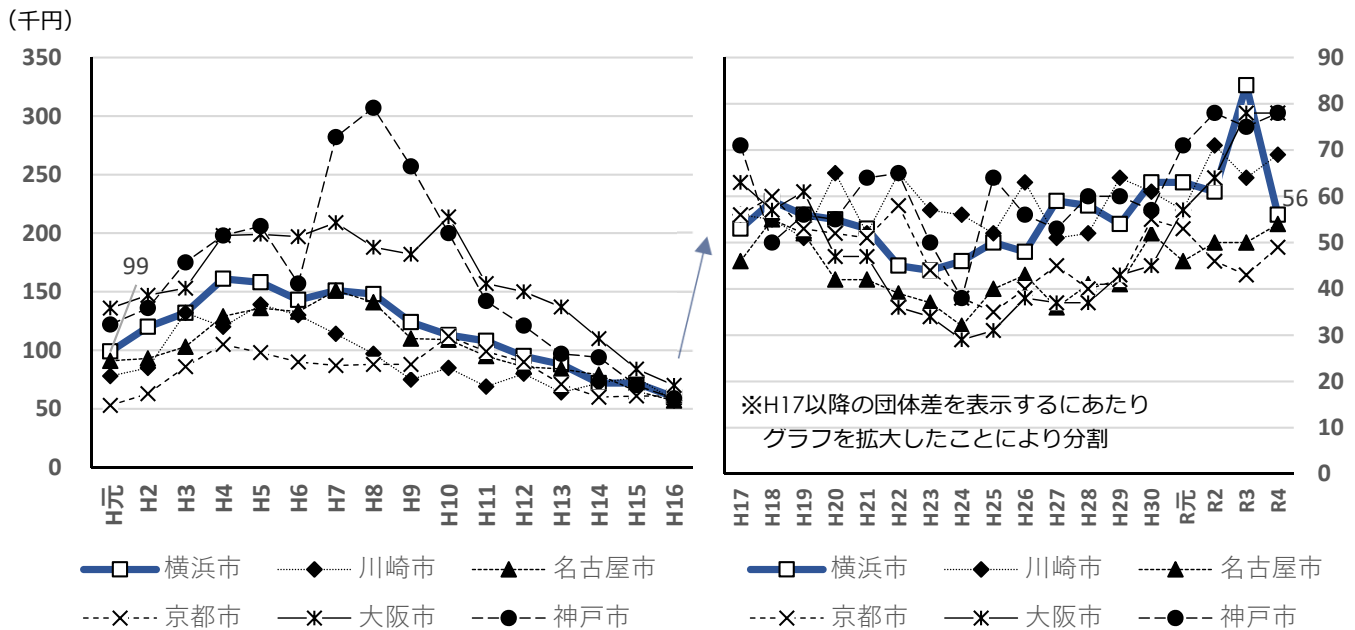
	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市	3,162	3,873	4,293	5,271	5,203	4,734	4,982	4,924	4,125	3,817	3,656	3,252	3,055	2,517	2,535	2,117	1,888
川崎市	903	992	1,568	1,439	1,663	1,565	1,377	1,173	907	1,048	852	994	813	922	992	746	739
名古屋市	1,955	1,995	2,222	2,797	2,927	2,863	3,240	3,029	2,380	2,350	2,069	1,876	1,823	1,722	1,423	1,255	1,015
京都市	782	918	1,259	1,532	1,433	1,315	1,275	1,288	1,285	1,643	1,448	1,322	1,047	882	887	900	832
大阪市	3,575	3,853	3,986	5,159	5,172	5,109	5,433	4,901	4,731	5,556	4,078	3,902	3,573	2,879	2,197	1,850	1,668
神戸市	1,785	2,010	2,601	2,965	3,108	2,387	4,019	4,409	3,740	2,945	2,114	1,805	1,460	1,414	1,060	900	1,079

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
横浜市	2,109	2,043	2,002	1,943	1,643	1,639	1,713	1,849	1,770	2,181	2,173	2,025	2,352	2,352	2,290	3,159	2,091
川崎市	744	693	904	737	920	818	803	747	921	755	771	967	925	877	1,092	978	1,049
名古屋市	1,222	1,167	953	944	884	841	719	906	988	829	936	950	1,200	1,062	1,170	1,152	1,250
京都市	887	778	769	750	859	644	560	509	592	662	595	614	813	777	679	627	652
大阪市	1,505	1,621	1,242	1,258	954	901	767	837	1,019	1,009	1,001	1,158	1,215	1,563	1,775	2,133	2,135
神戸市	772	855	849	982	1,003	778	594	985	861	807	914	922	872	1,082	1,197	1,140	1,168

※当該年度中最も金額の多い数値を網掛け

- 京都市と川崎市の投資的経費は、この30年の間、大きく変動することなく推移していると言えます。
- それ以外の団体では、平成元年度から10年度(大阪市は14年度頃まで)までは投資的経費を一定額確保してきたものの、その後減少に転じ、平成中頃から横ばい傾向にあります。
- 本市は平成15年度以降、類似団体中でも投資的経費が高い水準となっています。

(2) 市民一人当たり投資的経費推移



	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市	99	120	132	161	158	143	151	148	124	113	108	95	88	72	72	60	53
川崎市	78	85	132	120	139	130	114	97	75	85	69	80	64	72	77	57	56
名古屋市	91	93	103	129	136	133	151	141	110	109	95	86	84	79	65	57	46
京都市	53	63	86	105	98	90	87	88	88	112	99	90	71	60	61	61	56
大阪市	136	147	153	198	199	197	209	188	182	214	157	150	137	110	84	70	63
神戸市	122	136	175	198	206	157	282	307	257	200	142	121	97	94	70	59	71

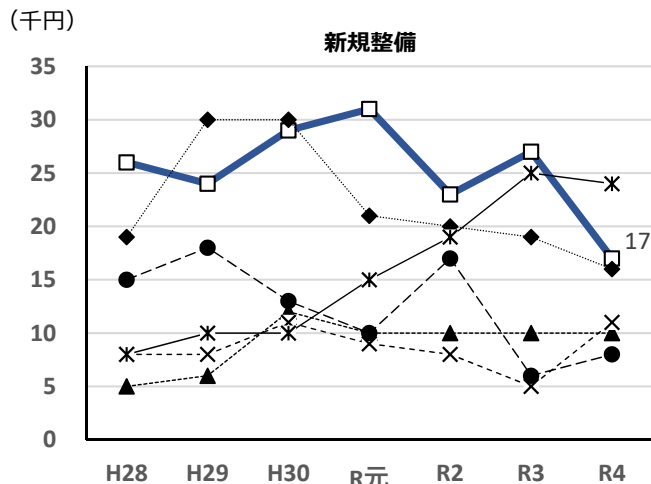
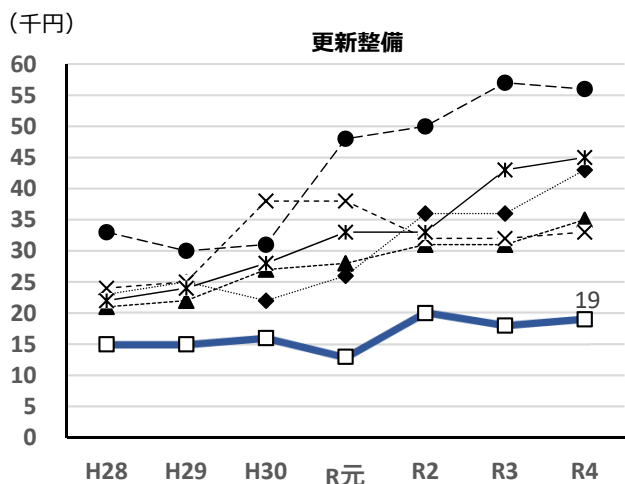
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
横浜市	59	56	55	53	45	44	46	50	48	59	58	54	63	63	61	84	56
川崎市	55	51	65	52	65	57	56	52	63	51	52	64	61	57	71	64	69
名古屋市	55	52	42	42	39	37	32	40	43	36	41	41	52	46	50	50	54
京都市	60	53	52	51	58	44	38	35	40	45	40	42	55	53	46	43	49
大阪市	57	61	47	47	36	34	29	31	38	37	37	43	45	57	64	78	78
神戸市	50	56	55	64	65	50	38	64	56	53	60	60	57	71	78	75	78

※当該年度中最も金額が多い数値を網掛け

- 平成前半は5～20万円台と団体間で差が見られましたが、平成後半は、いずれの団体もおおむね4～7万円台の水準となっています。

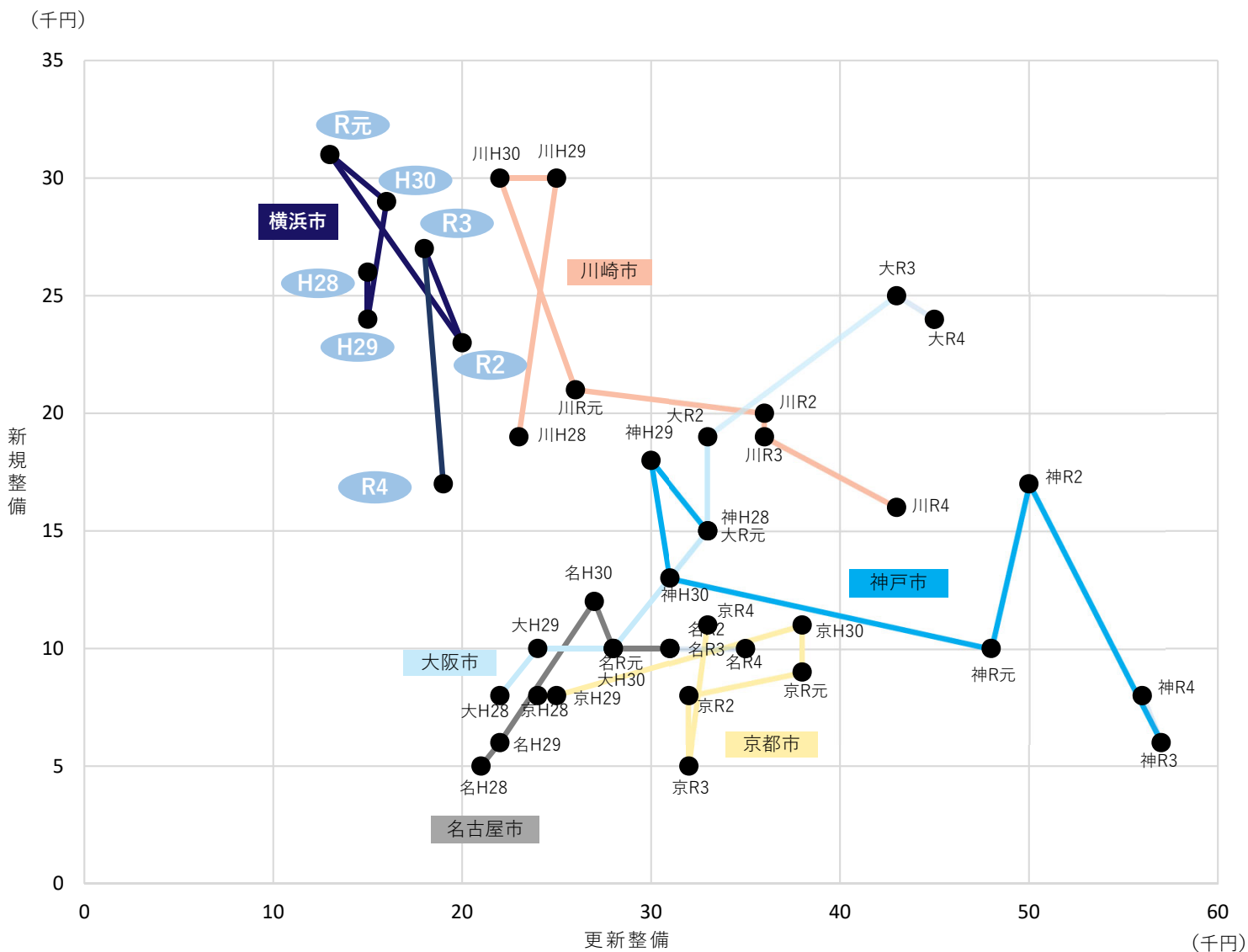
(3) 市民一人当たり投資的経費推移(更新・新規)

※投資的経費の内訳区分は平成26年度に設定



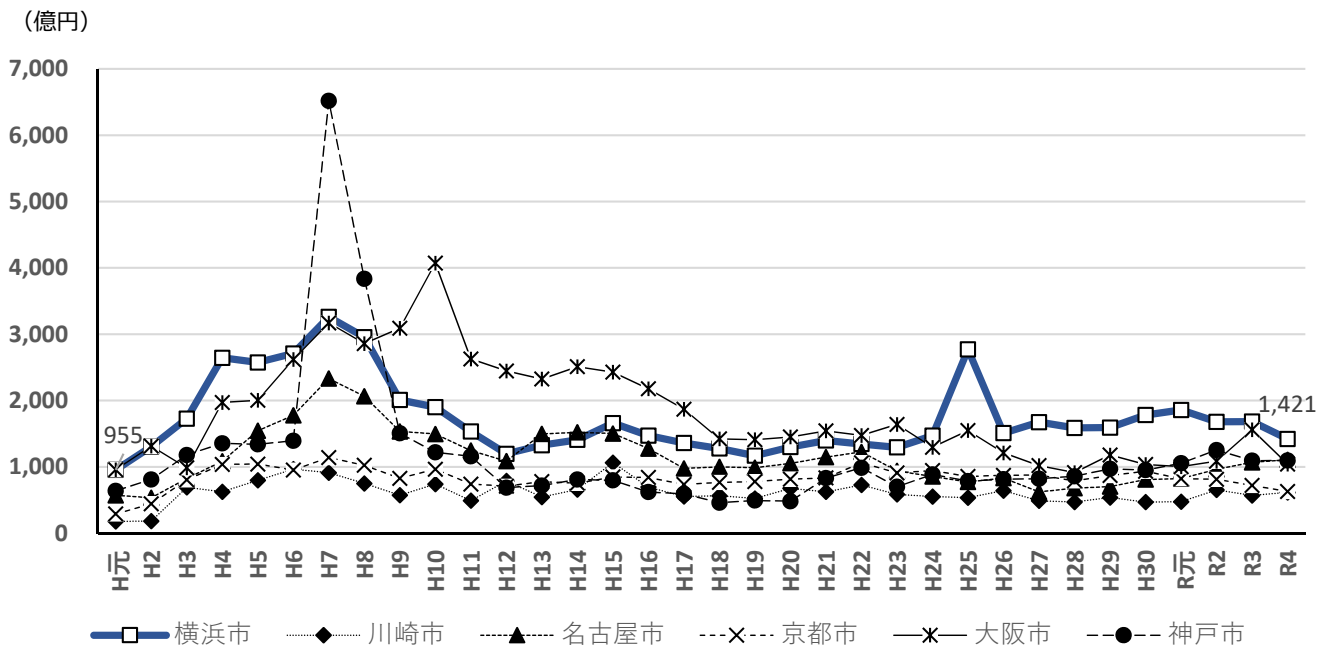
■ 横浜市 ◆ 川崎市 ▲ 名古屋市
x 京都市 x 大阪市 ● 神戸市

■ 横浜市 ◆ 川崎市 ▲ 名古屋市
x 京都市 x 大阪市 ● 神戸市



●本市の市民一人当たり投資的経費の内訳を類似団体間で比較してみると、令和4年度は更新整備の額が最も少なく1.9万円、一方、新規整備等は1.7万円で大阪市に次いで2番目に高い水準となっています。

(4) 地方債発行額推移 ※臨時財政対策債含む



※大阪市の平成10年度はJ R阪和線の高架化工事（用地取得含む）等に伴う用地先行取得債による。
 ※神戸市の平成7～9年度は阪神・淡路大震災の災害復旧工事等による。ここに計上されている以外にも災害復旧事業債（7年度:1,640億円、8年度:829億円、9年度:44億円）を発行している。
 ※横浜市の平成25年度は横浜市土地開発公社解散に伴う第三セクター等改革推進債による（発行額1,372億円）。

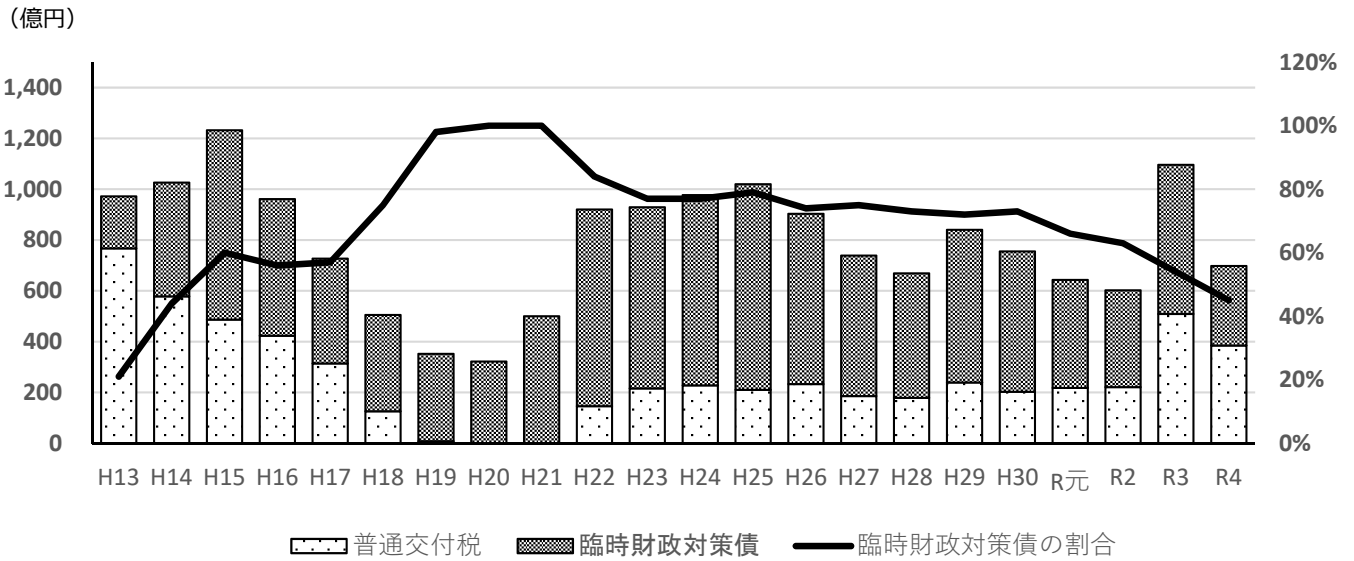
	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市	955	1,306	1,727	2,644	2,575	2,709	3,261	2,956	2,009	1,901	1,533	1,196	1,327	1,408	1,660	1,472	1,359
川崎市	177	183	691	625	797	966	912	750	573	741	491	788	545	658	1,064	696	553
名古屋市	572	534	826	1,084	1,545	1,777	2,332	2,064	1,535	1,496	1,246	1,087	1,497	1,521	1,503	1,276	977
京都市	290	443	806	1,038	1,042	953	1,141	1,024	827	965	740	709	778	754	848	841	736
大阪市	958	1,314	985	1,971	2,004	2,619	3,170	2,859	3,091	4,073	2,628	2,446	2,325	2,511	2,429	2,177	1,870
神戸市	639	811	1,180	1,356	1,340	1,394	6,518	3,835	1,507	1,220	1,159	688	718	811	797	621	593

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
横浜市	1,277	1,169	1,299	1,398	1,345	1,294	1,471	2,771	1,509	1,675	1,588	1,592	1,782	1,858	1,679	1,683	1,421
川崎市	565	524	677	624	727	585	552	536	642	488	470	538	469	475	653	569	615
名古屋市	1,000	988	1,053	1,147	1,226	940	855	773	831	622	679	703	809	823	963	1,069	1,106
京都市	766	778	816	834	1,061	909	945	855	873	876	790	870	934	821	813	720	630
大阪市	1,422	1,410	1,451	1,543	1,474	1,641	1,296	1,548	1,211	1,019	914	1,180	1,036	1,003	1,086	1,560	1,042
神戸市	460	493	483	831	987	701	886	787	814	821	859	971	952	1,056	1,254	1,094	1,096

※当該年度中最も金額の小さい数値を網掛け

- いずれの団体も投資的経費が多かった平成元年度から10年度にかけて、地方債発行額も増える傾向にありました。
- 平成24年度以降、本市の地方債発行額は類似団体中で最も多くなっています。

《参考》 本市における広義の地方交付税（普通交付税、臨時財政対策債）の推移



	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
臨時財政対策債	205	448	745	538	413	379	344	322	500	774	713
普通交付税	767	578	487	423	314	126	8	0	0	146	216
合計	972	1,026	1,232	962	727	505	352	322	500	920	928

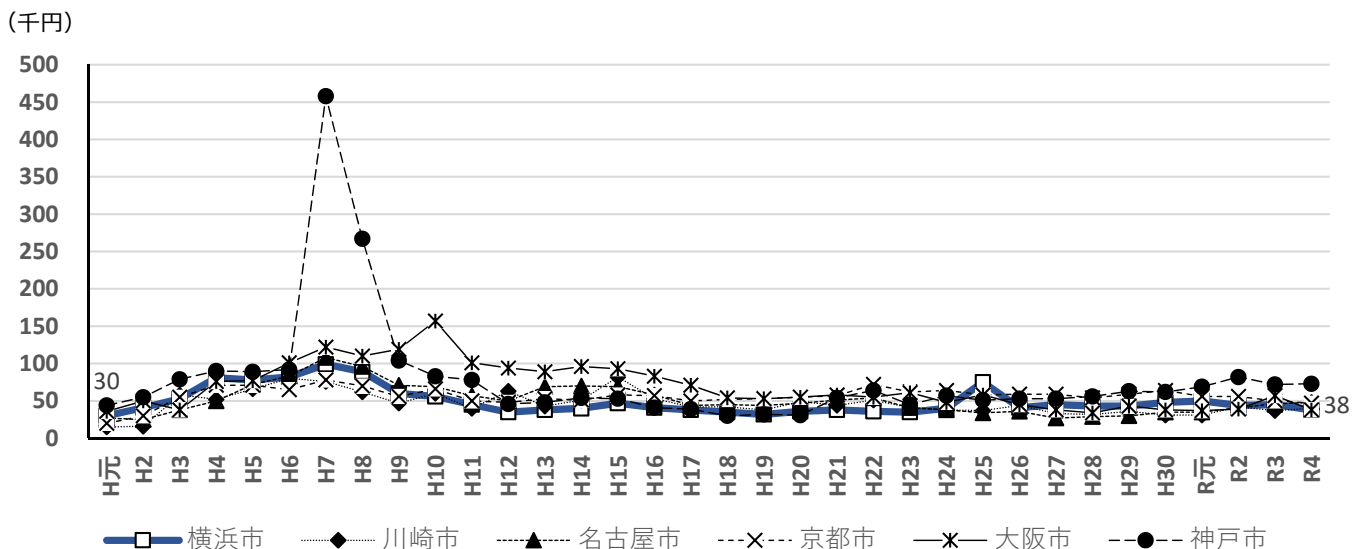
臨時財政対策債の割合	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	21%	44%	60%	56%	57%	75%	98%	100%	100%	84%	77%

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
臨時財政対策債	749	810	670	553	490	601	552	425	381	587	313
普通交付税	228	210	233	186	179	239	203	218	221	509	385
合計	977	1,020	903	739	669	840	756	643	602	1,095	698

臨時財政対策債の割合	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
	77%	79%	74%	75%	73%	72%	73%	66%	63%	54%	45%

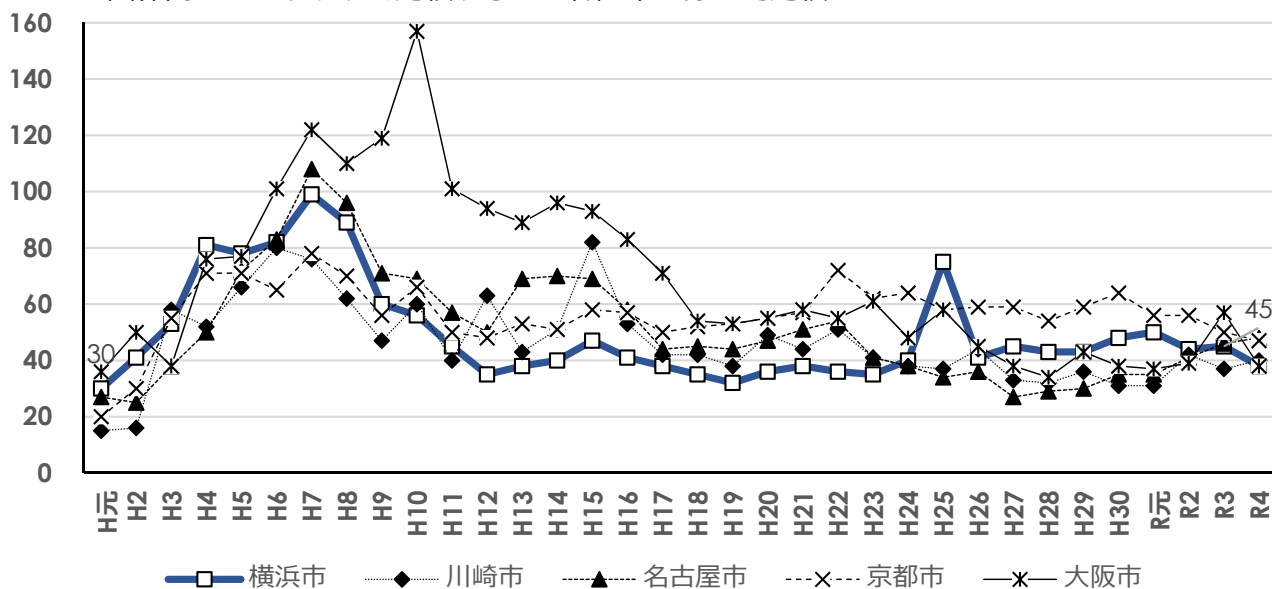
● 広義の地方交付税は平成22年度以降、300～800億円台の交付額となっています。このうち普通交付税は100～300億円台、臨時財政対策債は300～800億円台であり、臨時財政対策債が占める割合は5～7割前後で推移しています。

(5) 市民一人当たり地方債発行額推移 ※臨時財政対策債含む



《参考》 神戸市を除いた5団体の市民一人当たり地方債発行額推移

(千円) 団体間をわかりやすく比較するため神戸市を除いて比較



	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市	30	41	53	81	78	82	99	89	60	56	45	35	38	40	47	41	38
川崎市	15	16	58	52	66	80	76	62	47	60	40	63	43	51	82	53	42
名古屋市	27	25	38	50	72	83	108	96	71	69	57	50	69	70	69	58	44
京都市	20	30	55	71	71	65	78	70	56	66	50	48	53	51	58	57	50
大阪市	36	50	38	76	77	101	122	110	119	157	101	94	89	96	93	83	71
神戸市	44	55	79	90	89	92	458	267	104	83	78	46	48	54	53	41	39

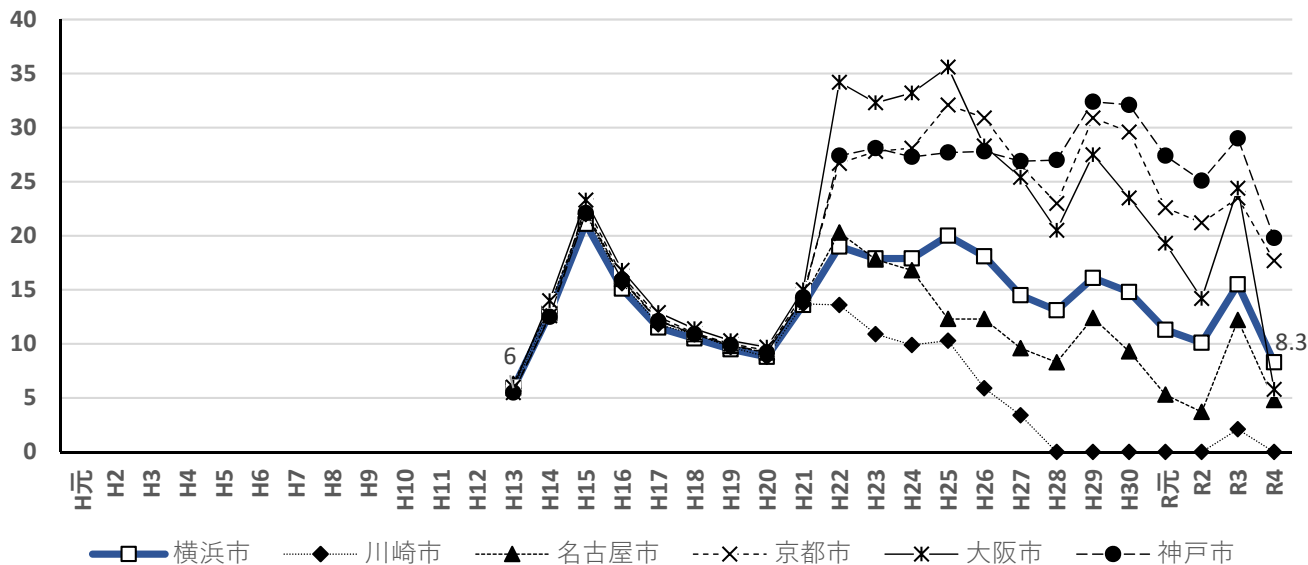
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
横浜市	35	32	36	38	36	35	40	75	41	45	43	43	48	50	44	45	38
川崎市	42	38	49	44	51	41	38	37	44	33	32	36	31	31	42	37	40
名古屋市	45	44	47	51	54	41	38	34	36	27	29	30	35	35	41	46	48
京都市	52	53	55	57	72	62	64	58	59	59	54	59	64	56	56	50	47
大阪市	54	53	55	58	55	61	48	58	45	38	34	43	38	37	39	57	38
神戸市	30	32	31	54	64	45	57	51	53	53	56	63	62	69	82	72	73

※当該年度中最も金額の少ない数値を網掛け

- いずれの団体も2－（1）投資的経費推移と連動するような動きで地方債発行していると言えます。
- 本市の市民一人当たり市債発行額は平成7年の9.9万円をピークに、直近の令和4年度は3.8万円となり、約6割減少しています。

(6) 市民一人当たり臨時財政対策債発行額推移

(千円)



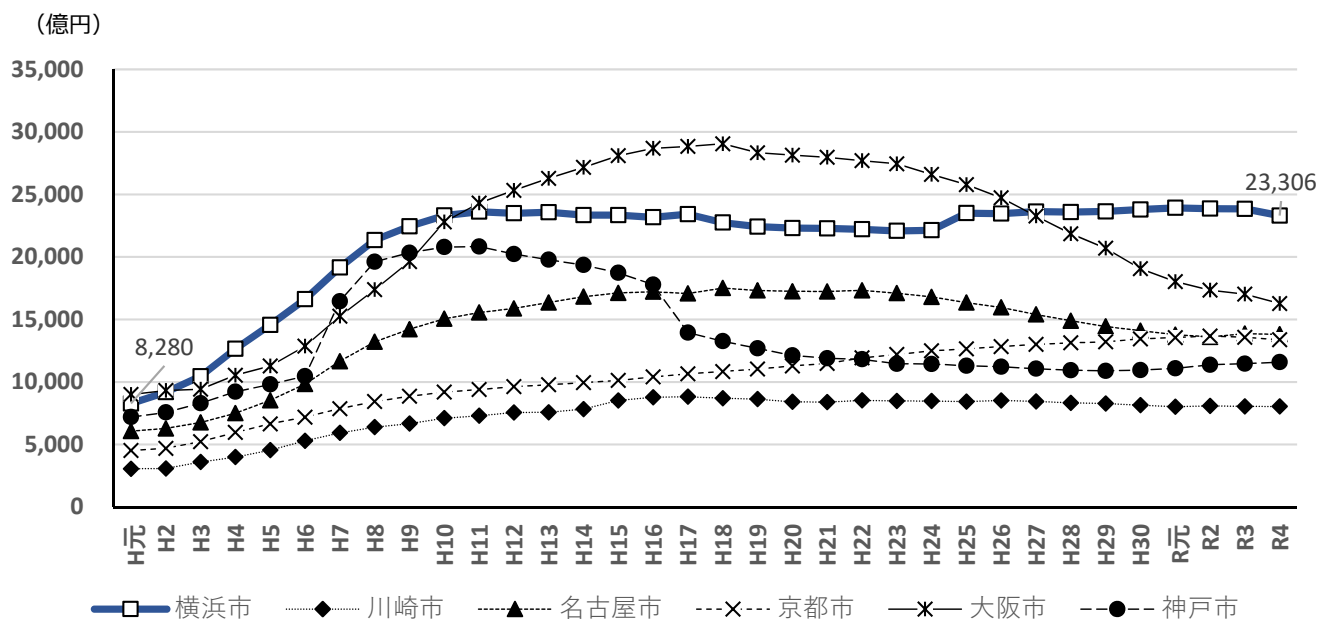
	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市													5.9	12.8	21.1	15.1	11.5
川崎市													5.9	13.0	22.0	15.6	11.8
名古屋市													6.3	13.5	22.3	16.0	12.2
京都市													5.5	12.6	22.8	16.3	12.5
大阪市													6.0	14.0	23.3	16.8	12.9
神戸市													5.5	12.5	22.1	15.9	12.1

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
10.5	9.5	8.8	13.6	19.0	17.9	17.9	20.0	18.1	14.5	13.1	16.1	14.8	11.3	10.1	15.5	8.3
10.9	9.7	8.8	13.7	13.6	10.9	9.9	10.3	5.9	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	0.0
10.9	9.8	9.2	14.2	20.3	17.8	16.8	12.3	12.3	9.6	8.3	12.4	9.3	5.3	3.7	12.2	4.8
11.0	10.0	9.4	14.6	26.7	27.8	28.1	32.1	30.9	26.5	23.0	30.9	29.6	22.6	21.2	23.5	17.7
11.4	10.3	9.7	15.0	34.2	32.3	33.2	35.6	28.3	25.4	20.5	27.5	23.5	19.3	14.2	24.4	5.8
10.9	9.9	9.2	14.3	27.4	28.1	27.3	27.7	27.8	26.9	27.0	32.4	32.1	27.4	25.1	29.0	19.8

※当該年度中最も金額の少ない数値を網掛け

- 平成13年度創設の臨時財政対策債は、当初は人口基礎方式（すべての地方公共団体に対して人口を基礎として算定する方式）が採用されており、すべての地方公共団体に発行可能額が割り当てられていたことから、類似団体間でほぼ同様の一人あたり発行額で推移してきました。平成23年度からは、財源不足額基礎方式（各地方公共団体の財源不足額及び財政力を考慮して算定する方式）に段階的移行（平成25年度に完全切替）がはじまったことで、地方公共団体間の割当額に差異がみられるようになりました。
- 本市の一人あたり発行額は令和4年度で8.3千円であり、類似団体間では中ほどの水準となっています。

(7) 地方債残高推移 ※臨時財政対策債含む



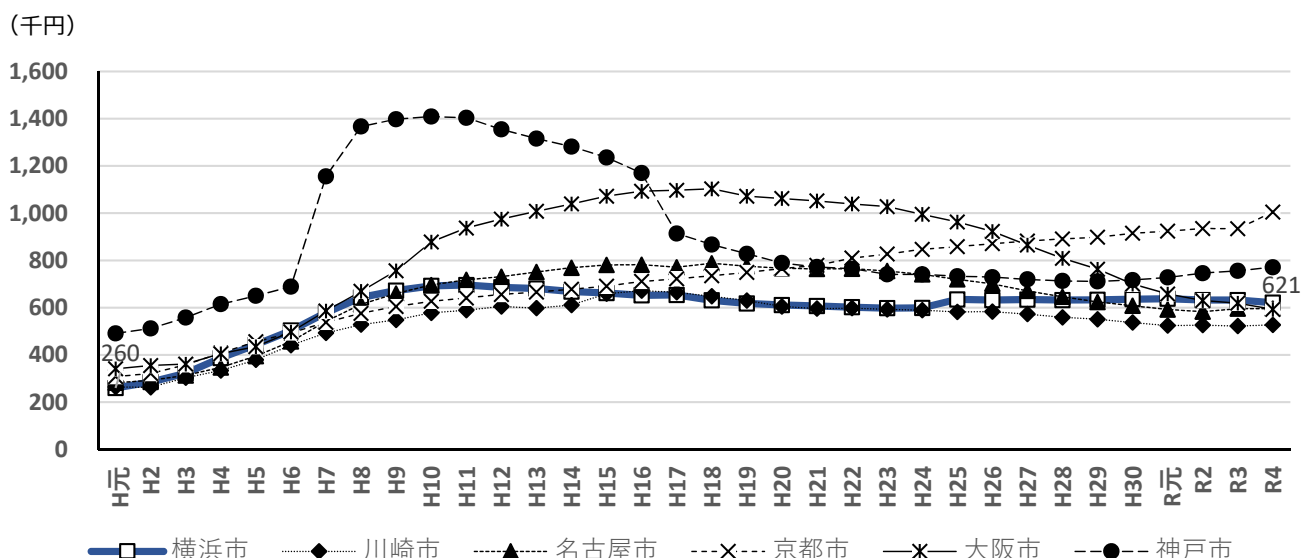
	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市	8,280	9,183	10,456	12,647	14,566	16,618	19,161	21,347	22,451	23,314	23,622	23,491	23,571	23,345	23,342	23,172	23,418
川崎市	3,059	3,084	3,599	3,996	4,549	5,298	5,933	6,390	6,673	7,107	7,301	7,562	7,578	7,828	8,520	8,781	8,820
名古屋市	6,072	6,282	6,764	7,502	8,535	9,833	11,655	13,214	14,215	15,053	15,555	15,881	16,357	16,821	17,126	17,218	17,081
京都市	4,523	4,696	5,232	5,969	6,656	7,190	7,871	8,441	8,862	9,196	9,401	9,627	9,780	9,948	10,127	10,411	10,653
大阪市	9,000	9,324	9,425	10,542	11,280	12,866	15,262	17,383	19,623	22,797	24,313	25,329	26,289	27,162	28,098	28,688	28,843
神戸市	7,195	7,570	8,301	9,220	9,806	10,468	16,455	19,610	20,333	20,789	20,831	20,233	19,780	19,358	18,730	17,787	13,947

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
22,747	22,423	22,309	22,281	22,211	22,080	22,137	23,503	23,464	23,625	23,584	23,641	23,790	23,926	23,864	23,844	23,306
8,698	8,633	8,416	8,395	8,530	8,482	8,479	8,429	8,521	8,447	8,327	8,280	8,147	8,022	8,084	8,047	8,039
17,511	17,324	17,249	17,241	17,326	17,107	16,800	16,348	15,967	15,400	14,899	14,441	14,104	13,781	13,606	13,864	13,815
10,841	11,038	11,288	11,488	11,934	12,201	12,498	12,648	12,838	13,010	13,134	13,212	13,447	13,550	13,679	13,581	13,381
29,052	28,334	28,145	27,970	27,705	27,450	26,602	25,786	24,733	23,272	21,859	20,698	19,063	18,029	17,346	17,026	16,281
13,263	12,687	12,126	11,900	11,820	11,450	11,437	11,302	11,223	11,062	10,943	10,893	10,957	11,091	11,377	11,466	11,589

※当該年度中最も金額の少ない数値を網掛け

- 大阪市は平成の中頃まで、神戸市は阪神・淡路大震災直後から平成の中頃まで地方債残高は増加傾向にありましたが、以後、減少に転じています。名古屋市や川崎市も平成20年代に入り減少傾向です。
- 一方、京都市は残高の増加が継続しています。横浜市では、平成11年度までは増加傾向にありましたが、それ以降24年度まで残高は横ばいの状況が続いたものの、25年度に第三セクター等改革推進債の発行により増加し、それ以後、残高は横ばいとなっています。類似団体の中では最も多い残高となっています。

(8) 市民一人当たり地方債残高推移 ※臨時財政対策債含む



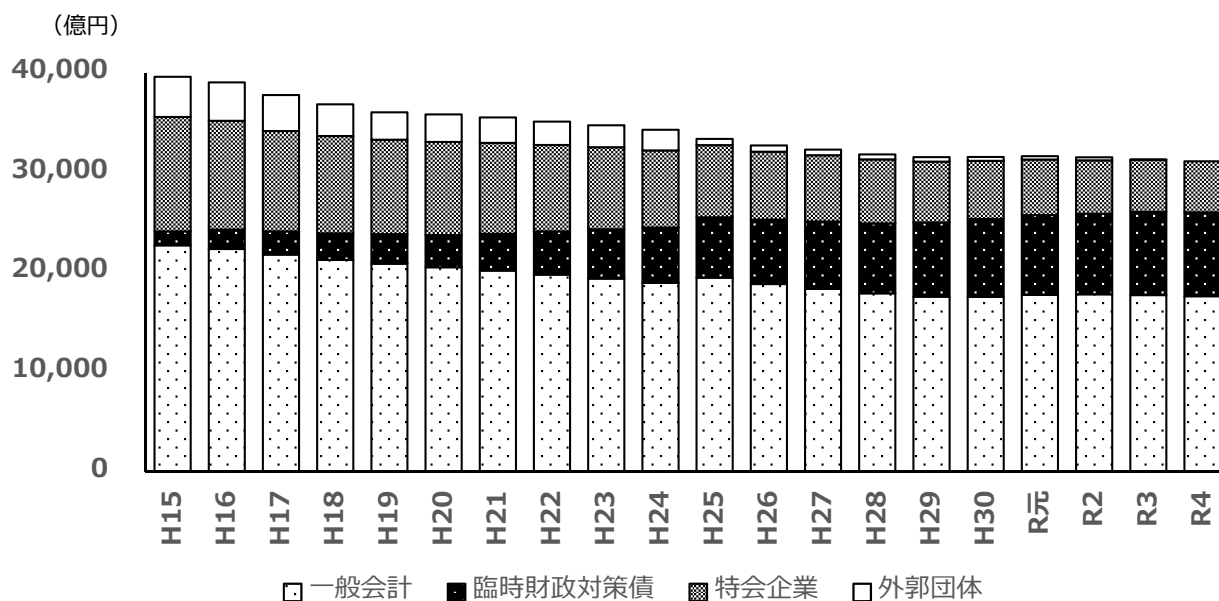
	H元	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
横浜市	260	285	322	387	443	503	579	643	672	692	696	686	681	668	662	652	654
川崎市	264	263	303	334	379	441	493	528	548	578	589	605	598	611	659	672	665
名古屋市	282	292	313	347	395	457	542	614	660	696	718	731	751	769	781	782	771
京都市	308	321	358	408	456	493	538	576	605	627	641	656	666	678	691	711	722
大阪市	341	355	361	405	435	497	586	669	756	878	937	975	1,008	1,039	1,072	1,093	1,097
神戸市	491	512	558	615	650	689	1,156	1,367	1,398	1,409	1,404	1,355	1,316	1,282	1,236	1,170	914

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
631	618	611	607	602	598	599	635	632	634	632	633	636	638	632	632	621
648	630	605	596	598	593	589	582	583	573	559	551	537	524	526	522	527
788	775	767	764	765	755	741	720	701	671	646	624	608	592	583	596	596
735	749	766	779	810	827	847	858	871	882	891	898	915	924	935	934	1,005
1,103	1,072	1,062	1,052	1,039	1,028	995	963	923	865	809	763	700	658	630	619	593
867	828	789	772	765	741	741	733	729	720	713	711	717	728	746	756	771

※当該年度中最も金額の少ない数値を網掛け

- 神戸市は阪神・淡路大震災直後に一人当たり残高が増加し10年程度大きく減少しない期間が続きましたが、その後減少傾向に転じています。大阪市は平成18年度をピークに減少に転じました。一方、京都市は一貫して増加傾向にあります。
- 横浜市では平成11年度までは増加傾向にありましたが、それ以降24年度までは残高が横ばいの状況が続き、25年度の第三セクター等改革推進債の発行により一旦増加したものの、それ以後、大きな変動は見られず、残高水準が維持されている状態です。

《参考》本市の一般会計が対応する借入金残高推移



	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24
合計	39,617	39,053	37,786	36,855	36,049	35,842	35,540	35,122	34,753	34,303
外郭団体	4,023	3,846	3,607	3,176	2,735	2,764	2,547	2,346	2,206	2,066
特会企業	11,494	10,933	10,076	9,761	9,490	9,340	9,134	8,669	8,235	7,753
臨時財政対策債	1,398	1,936	2,326	2,670	2,966	3,239	3,689	4,339	4,947	5,548
一般会計	22,702	22,337	21,778	21,248	20,859	20,499	20,170	19,768	19,365	18,935

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
合計	33,382	32,725	32,313	31,830	31,549	31,570	31,648	31,543	31,312	31,142
外郭団体	617	617	560	502	445	389	336	301	22	0
特会企業	7,253	6,809	6,653	6,416	6,094	5,823	5,576	5,373	5,219	5,125
臨時財政対策債	6,047	6,471	6,760	7,022	7,453	7,815	8,012	8,079	8,363	8,422
一般会計	19,465	18,828	18,339	17,889	17,557	17,542	17,724	17,790	17,708	17,595

- 特別会計・企業会計、外郭団体の債務のうち一般会計が対応する借入金残高は縮減しています。
- 臨時財政対策債を除く一般会計残高は減少傾向にありますが、臨時財政対策債の残高が増加していることから、結果として、全体として直近5年程度は3兆1,000億円台の残高水準で推移しています。

《参考》 横浜市土地開発公社から引き継いだ土地と第三セクター等改革推進債の状況

① 横浜市土地開発公社から引き継いだ土地の状況

(令和6年3月時点)

区分	街区	面積 (ha)	公社(清算時)		売却価格または売却見 込価格(億円)	備考		
			簿価(億円)	時価(億円)				
道路 事業用地	狩場町(4)土地	0.1	3.7	1.6	/			
	磯子一丁目1土地	0.4	14.2	3.0				
	しらとり台土地	0.1	4.6	0.6				
公園・緑地 事業用地	馬場七丁目土地	0.7	20.0	6.3				
	山手町土地	0.1	14.7	3.4				
	寺山町長坂谷土地	0.3	10.3	1.7		1	R3年度売却(0.2ha) 公園用地として利用(0.1ha)	
	野七里二丁目土地	0.8	6.2	1.4				
	舞岡町(2)土地	8.7	89.6	10.7				
福祉施設 事業用地	佐江戸町杉崎土地	0.1	5.4	2.3				
都市計画 事業用地	戸塚町(2)土地	0.3	43.8	21.8				
区庁舎等 施設用地	浦舟町3丁目土地	0.1	12.7	3.5				
事業用地計(A)		11.7	225	56	1			
売却予定地	52	0.6	85	43	283	R4年度売却(DKみなとみらい52街区特定目的会社、株式会社光優)		
	53	0.9	124	91	90	R元年度売却(株式会社大林組、ヤマハ株式会社、京浜急行電鉄株式会社、日鉄興和不動産株式会社、みなとみらい53EAST合同会社)		
	54	1.3	175	125	108	H28年度売却(清水建設株式会社)		
	55-1	0.4	30	73	47	H29年度売却(LG Holdings Japan株式会社)		
	55-2	0.4	27		32		H26年度売却(学校法人鶴見歯科学園)	
	56-1	0.4	35	87	31	H28年度売却(京浜急行電鉄株式会社)		
	56-2	0.7	55		68		H27年度売却(株式会社資生堂)	
	57	1.4	128	124	※1	124	(10年暫定利用)みなとみらい本町小学校(1.0ha)	
	58	0.9	104	85		87	H30年度売却(鹿島建設株式会社、住友生命保険相互会社、三井住友海上火災保険株式会社)	
	60・61		0.6	68	36	※2	32	
						※3 貸付料	19	H29年度定期借地契約(32年間) (日本テレビ音楽株式会社)
			1.3	155	82		72	H30年度売却(株式会社ケン・コーポレーション)
		1.4	166	88	※2	78	R6.2 事業予定者決定 ※4	
みなとみらい土地計		10.1	1,151	833		1,070		
	洋光台五丁目土地	0.4	39	5.7		4	H29年度売却(0.3ha)(大和ハウス工業株式会社) こども科学館の駐車場として利用(0.1ha)	
	笠間町扇子田土地	0.6	36	9		12	R4年度売却(明和地所株式会社)	
売却予定土地 計(B)		11.1	1,226	848		1,086		
引継土地合計(A+B)		22.8	1,451	904		1,087		
					19	一時貸付収入		

- ※1 公社解散時の時価額
- ※2 H30年度に売却した同一街区の売却単価で試算
- ※3 事業用定借契約期間中貸付料の総額見込額
- ※4 原則として、事業予定者決定から1年以内に売買契約締結予定

- 横浜市土地開発公社解散に伴い、本市は22.8ha、1,451億円(清算時簿価)の公保有土地を引き継ぎました。このうち11.7haを事業用地として活用し、残り11.1haを売却予定地としました。
- 売却予定地11.1haのうち令和5年度末までに7.8haが売却済、0.6haを貸付けています。

② 第三セクター等改革推進債残高推移

(単位：億円)

	当初発行額	H26決算	H27決算	H28決算	H29決算	H30決算
元金償還額		38	38	110	38	260
年度末現在高	1,372	1,334	1,295	1,185	1,147	887
	R元決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5見込	R6予算
	73	73	73	73	220	35
	814	741	667	594	374	339

③ 第三セクター等改革推進債償還額及び償還財源

(単位：億円)

区分	H26決算	H27決算	H28決算	H29決算	H30決算	
元金	38	38	110	38	260	
利子等	5	5	4	4	6	
償還額合計	43	43	115	42	266	
償還財源	土地売却収入	5	39	114	26	265
	土地貸付収入等	6	4	1	7	1
	一般財源	32	-	-	9	-
	R元決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5見込	R6予算
	73	73	73	73	220	35
	3	3	3	2	2	1
	76	76	76	75	222	36
	74	16	2	74	220	-
	2	2	1	1	1	36
	-	58	73	-	1	-

【参考】第三セクター等改革推進債償還額及び償還財源の状況

(単位：億円)

区分	償還額と償還財源累計 (公社解散時)	償還額と償還財源累計 (R4決算時見込み)
元金	1,372	1,372
利子等見込額	74	44
元金・利子等 計	1,446	1,416
財源	土地売却収入等	1,105
	一般財源	311

- 土地開発公社の保有土地を本市が引き継ぐにあたり、平成25年度に第三セクター等改革推進債1,372億円を発行しました。20年間での償還を予定しており、令和6年度末の残高見込みは339億円となっています。
- 償還財源として、土地売却収入や貸付収入を活用するほか、今後は売却の進展により、売却予定地が減少していくことから、一般財源も充当していきます。